KUREHA REPORT

クレハ レポート 第113期 中間報告書

2025年4月1日 → 2025年9月30日

株式会社クレハ
KUREHA CORPORATION

証券コード：4023

トップメッセージ TOP MESSAGE

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。当社第113期中間期（2025年4月1日から2025年9月30日まで）の「クレハ レポート」をお届けします。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申しあげます。

2025年12月

代表取締役社長　小林 豊

2025年度上期の振り返り

2025年度上期の当社グループの売上収益は前年同期比5.2%減の774億円となりました。機能製品セグメントのポリグリコール酸（PGA）樹脂加工品、ポリフェニレンサルファイド（PPS）事業において増収となりましたが、樹脂製品セグメントの業務用熱収縮多層フィルム事業から昨年度上期に撤退したこと等から減少となりました。営業利益は、機能製品セグメントにおけるPPS事業の利益回復が最も大きく貢献し、前年同期比16.5%増の81億円、税引前利益は前年同期比13.7%増の85億円、親会社の所有者に帰属する中間利益は前年同期比11.8%増の63億円となりました。

なお中間配当金は、2025年8月に公表した予想通り1株につき109.50円とさせていただきました。

中長期経営計画（2023年度～2025年度）の仕上げに向けて

2023年度にクレハグループ中長期経営計画『未来創造への挑戦』を開始した際、2025年度の中期目標を設定するとともに、今後目指すべき長期の未来図として「独自技術でスペシャリティを追求し、未来を拓く社会貢献企業」という「クレハビジョン」を新たに設定しました。このビジョンの達成に向けて、会社を着実に変革するための最重要施策の一つとして、「技術立社の再興」を掲げました。しかし、中長期経営計画開始の直後から、成長ドライバーの中心と位置づけておりましたリチウムイオン二次電池用バインダー向けのフッ化ビニリデン樹脂（PVDF）事業が、電気自動車市場の成長率鈍化により停滞を余儀なくされるなど、当初計画の前提に変更が生じました。この変化を踏まえて、2024年度には、『クレハグループ中長期経営計画ローリングプラン2025』を策定し、事業環境の変化に応じた施策を実施してきました。

事業環境の変化に応じて柔軟にあらゆる施策を見直す中で、とりわけ「技術立社の再興」については、こだわりを持って、中長期経営計画開始時より一貫して取り組んできました。主な取り組みとしては、研究資源配分の適時適切な見直しによる注力テーマへの集中的な資源投入、研究開発を進める上でのマーケットインの考え方の強化、新事業創出に関する日本・米国のグローバル体制の構築、また優秀な技術系人財の確保、情報収集力の強化、外部研究機関との協創・協業、およびマーケティング強化の観点から2024年度に東京研究所を開設しました。さらに、当社は創業以来、自社技術にこだわってきましたが、オープンイノベーションが必要な時代であることや研究開発のスピードが重要であることも踏まえ、国内の研究機関との協業に加え、米国・英国のスタートアップ企業への出資を通じて、研究開発・新事業創出のスピードアップを図ってきました。その結果、将来の収益貢献が期待できる新事業の候補が育ってきています。製造面でも、最も情報が集まる製造現場にてさまざまな技術開発ができるよう組織的な見直しを行ってきました。本年4月に立ち上げた生産革新プロジェクトでは、世界で戦える工場へと進化するべく、当社のマザー工場であるいわき事業所において、工場の戦略機能強化、生産体制のスリム化、経費削減の3つの方針を策定し、改革に取り組んでいます。

「技術立社」として発展してきた当社の強みにさらに磨きをかけ、継続的な企業価値の向上を支える研究・技術開発力の強化に、こだわりを持って取り組み、3年間の中期経営計画を締めくくってまいります。

2025年度通期業績予想について

2025年度通期の業績予想につきましては、2025年5月に発表しました予想からの変更はなく、売上収益は前期比1.8%増の1,650億円、営業利益は同48.5%増の140億円、税引前利益は同37.0%増の140億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は同28.2%増の100億円といたしました。なお、基本的1株当たり当期利益については、本年度に実施した自己株式の結果を踏まえて、2025年8月に249.82円とする予想を公表しており、本公表からの変更はございません。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申しあげます。

Information インフォメーション

今までどおり書面で株主総会資料のお受取りを希望される株主様へ

会社法の改正により、2023年3月以降に開催される株主総会から、これまで郵送していました株主総会資料（株主総会参考書類、事業報告、計算書類および連結計算書類等）は、原則ウェブサイトでのご確認へと変わりました。株主の皆様には、ウェブサイトへのアクセス方法等を記載した書面（以下、通知書面）を送付いたします。通知書面にてご案内するウェブサイトにアクセスすることにより株主総会資料の全文をご確認いただけます。

インターネットのご利用が困難であるなどの事情により、書面の株主総会資料を希望される株主様は、当社株主総会基準日（2026年6月開催予定の定時株主総会におきましては、2026年3月31日）までに、書面で受領するためのお手続き（書面交付請求）を完了していただく必要があります。お手続き完了までに2週間以上お時間がかかる場合がございますので、余裕をもってお手続きくださいますようお願い申しあげます。なお、株主総会の基準日以降に書面交付請求が完了した場合は、書面の株主総会資料のお届けは、翌年の株主総会からとなります。

● 書面交付請求の受付、お問い合わせ窓口

証券会社	みずほ信託銀行　証券代行部
お取引をされている証券会社	専用ダイヤル　**0120-524-324**（平日 9：00～17：00） ウェブサイト　https://contact.www.mizuho-tb.co.jp/?site_domain=daikou

ウェブサイトのご案内

企業情報はこちら　https://www.kureha.co.jp/

IR情報はこちら　https://www.kureha.co.jp/ir/

会社の概要（2025年9月30日現在）

商号	株式会社クレハ
英文社名	KUREHA CORPORATION
本社	東京都中央区日本橋浜町3-3-2
設立	1944年6月21日
資本金	18,169百万円
グループ従業員数	4,027名（単独：1,663名）
連結対象会社数	27社（連結子会社26社、持分法適用会社1社）

● 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
株主確定基準日	定時株主総会　3月31日 期末配当　3月31日 中間配当　9月30日 その他必要がある時は、取締役会の決議によってあらかじめ公告します。
公告方法	当社のWebサイトに掲載します。 （https://www.kureha.co.jp/ir/stocks/koukoku.html） ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1-3-3　みずほ信託銀行株式会社

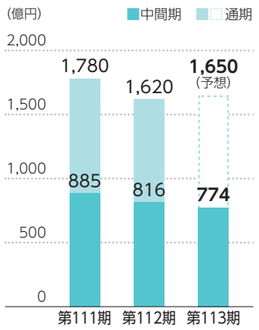
FSC ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C022915
VEGETABLE OIL INK
Waterless Printing. Naturally.
環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。
UD FONT by MORISAWA
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

株式会社クレハ
KUREHA CORPORATION

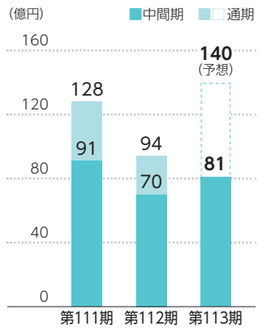
連結財務ハイライト FINANCIAL HIGHLIGHTS

詳細はこちらをご覧ください
https://www.kureha.co.jp/ir/zaimu/profits.html

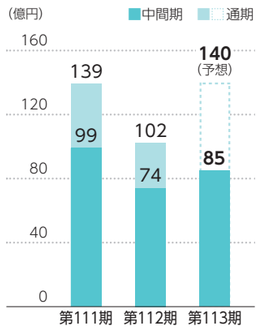
売上収益



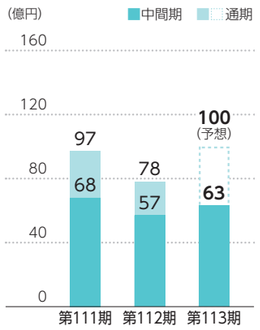
営業利益



税引前(中間)利益

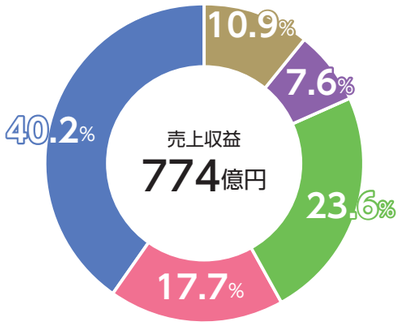


親会社の所有者に帰属する当期(中間)利益



セグメント別営業概況 REVIEW BY SEGMENTS

詳細はこちらをご覧ください
https://www.kureha.co.jp/ir/zaimu/efficiency.html



機能製品事業

売上収益 **311**億円

機能樹脂分野

リチウムイオン二次電池用バインダー向けのフッ化ビニリデン樹脂の売上げは減少したものの、シェールオイル・ガス掘削用途のPGA樹脂加工品およびPPS樹脂の売上げが増加したことに加えて原材料価格の下落もあり、この分野での売上げ、営業利益はともに増加しました。

炭素製品分野

高温炉用断熱材の売上げが増加したことから、この分野での売上げ、営業利益はともに増加しました。

化学製品事業

売上収益 **137**億円

農薬・医薬分野

農業・園芸用殺菌剤の売上げが減少したことから、この分野での売上げ、営業利益はともに減少しました。

工業薬品分野

有機薬品類の売上げが減少したことから、この分野での売上げは減少しましたが、原材料価格の下落により営業利益は増加しました。

樹脂製品事業

売上収益 **182**億円

コンシューマー・グッズ分野

家庭用ラップ「NEWクレラップ」およびフッ化ビニリデン釣糸「シーガー」の売上げが増加し、この分野での売上げ、営業利益はともに増加しました。

業務用食品包装材分野

熱収縮多層フィルムの販売を前年上期で終了したことにより、売上げ、営業利益はともに減少しました。

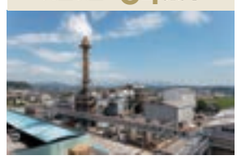
建設関連事業

売上収益 **59**億円

公共工事および民間工事が増加したことにより、売上げは増加しましたが、売上構成の変化により営業利益は前年同期並みとなりました。

その他関連事業

売上収益 **84**億円



環境事業

廃棄物処理数量の減少により、売上げ、営業利益はともに減少しました。

その他の事業

売上げ、営業利益はともに減少しました。

TOPICS おかげさまで65周年

ロングセラー商品「クレラップ」

初代クレラップ

1960年7月に日本初の家庭用ラップとして販売された「クレラップ」。「ラップって何?」そんな時代にクレハが独自技術で作り上げた商品です。その後、「クレラップ」は時代の流れとともに成長してきました。1960年代半ばから急速に一般家庭に浸透してきた冷蔵庫。70年代半ばからは電子レンジの普及も進み、食品保存や調理にラップを使用するシーンが増えました。こうして、「クレラップ」はキッチンでの必需品にまで成長してきました。

やっぱり、日本初のいいものを。
NEWクレラップ

1989年にはV字型の刃を採用、デザインもそれまでの花柄からフルーツ柄に変更するなど大幅なパッケージのリニューアルを実施し、「NEWクレラップ」に生まれ変わりました。その後も巻き戻り防止のための機能や扱いやすさの向上など、パッケージにさまざまな改良を加えてきました。商品名に冠した「NEW」には、現状にとどまることなく常に良いものをお客様にお届けしたいという当社の思いが込められています。

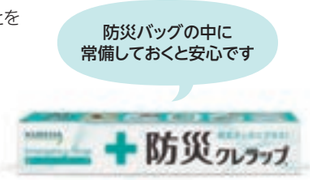
クレラップは今年で販売開始から65周年を迎えました。
お使いいただいている皆さまのおかげです。心より御礼申しあげます。
クレハはこれからもお客様の使い勝手向上を追求し、良い商品をお届けしてまいります。

クレラップのラインナップ

クレハは多様化する消費者ニーズをとらえた商品開発を進めています

防災クレラップ

災害時にラップが役立つことをご存知ですか?
クレハは、もしもの時に衛生面や健康面でサポートする「防災クレラップ」を作りました。



POINT

- 水が使えない状況でも、お皿に敷けば洗わずに済み、**節水に役立ち**ます。
- クレラップには**においをブロック**できる力があるので、おむつや生ゴミなど、においが気になるものを捨てる時に役立ちます。

NIPPONクレラップ

外国人の方が日本のラップを使うとその性能のすばらしさに驚くそうです。
インバウンド需要が高まる中、日本を感じてもらえるデザインのラップを作りました。

復刻版レトロクレラップ

1973年に発売した花柄ラップ。
昭和レトロがおしゃれです。
復刻版として販売中です。

クレハの家庭用品サイト
クレライフ

第113期剰余金の配当(中間配当)に関する取締役会決議

当社は、利益の配分については、将来の事業展開に向けた積極投資に資する内部留保を充実させつつ安定的な配当を基本方針とし、2025年度から配当基準として、DOE(連結株主資本配当率)を導入しております。また、2025年度および2026年度において、DOE 5%を目安とした配当を行うとしております。

2025年11月11日開催の当社取締役会において、第113期(2025年4月1日から2026年3月31日まで)の中間の配当金は、1株当たり109円50銭とすることを決議いたしました。

1株当たりの配当金 (円)

	112期	113期
中間	43.35	109.50
期末	43.35	109.50(予想)
年間	86.70	219.00(予想)